

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



HDS027-09

会場:301A

時間:5月25日 10:45-11:00

## 福井・岐阜県境稜線にみられる山体重力変形地形について Sagging geomorphology on ridges along the Fukui-Gifu prefecture boundary, central Japan

小嶋 智<sup>1\*</sup>, 徳永 浩之<sup>1</sup>, 山城屋 誠一<sup>1</sup>, 大谷 具幸<sup>1</sup>

Satoru Kojima<sup>1\*</sup>, Hiroyuki Tokunaga<sup>1</sup>, Seiichi Yamashiroya<sup>1</sup>, Tomoyuki Ohtani<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 岐阜大学工学部社会基盤工学科

<sup>1</sup>Dept. of Civil Eng., Gifu Univ.

国土交通省中部地方整備局越美山系砂防事務所より提供された1mメッシュのDEMおよびそれから作成された等高線図・陰陽図を用いて、岐阜・福井県境の稜線の地形判読を行い、二重山稜、山向き小崖といった山体重力変形地形を記載するとともに、その地質構造との関係を考察した。本地域には、美濃帯のジュラ紀付加体に属するチャート・メランジュ・玄武岩、新第三紀の糸生層（安山岩溶岩・火砕岩）および能郷白山花崗閃緑岩が分布する。解析した県境稜線の長さは49.8kmで、合計182箇所の山体重力変形地形がみられ、その総延長は8.9kmであった。山体重力変形地形の分布にはばらつきがあり、火山岩・花崗閃緑岩分布域では密度が高いのに対し、チャート・メランジュ分布域では低い。二重山稜の延びの方向は尾根の延びの方向と平行な場合がほとんどであるが、山向き小崖の中には、尾根と斜交したり直交するものもある。面構造を持つ地層の層理面が尾根と平行になると、山向き小崖の規模は大きくなる。二重山稜の間、あるいは山向き小崖と斜面の間の線状凹地は、多くの場合泥質堆積物によって埋積されている。この堆積物の解析により、本地域の山体重力変形地形の発達の歴史を明らかにすることが可能となると期待される。

キーワード: 山体重力変形地形, 二重山稜, 山向き小崖, 福井, 岐阜

Keywords: sagging geomorphology, double ridge, uphill-facing scarp, Fukui, Gifu